

# INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和4年10月

No.2

## 株式会社TACやつしろ

### 経営概要

所在地：熊本県八代市  
従業員：役員4名、社員15名、  
パート・アルバイト13名、  
外国人22名（男性9名、女性13名）  
栽培品目：レタス類70ha（内ハウス35ha）、  
水稲20ha



平成14年7月会社設立。加工、業務用レタスの生産、販売に特化した経営を展開。  
令和2年にGLOBALG.A.P.を取得。これにより契約先との取引量が増加、安定。  
農業後継者と新規農業経営者の育成に注力し、年齢や経験の有無にとらわれず就農希望者を積極的に雇用しながら、農業経営の未来を共に築き上げていくことを目標としている。

### 外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

11~12年前（平成21年頃）、経営規模を拡大する際、日本人の雇用が困難だったことから、労働力不足を補うため、管理団体に相談しながら外国人の雇用を開始しました。

当初は中国人を雇用しましたが、その後、平成26年頃からはベトナム人にシフトし、現在は、ベトナム14名、カンボジア8名、合計22名（うち特定技能3名）を雇用しています。

特定技能の3名は、全員が元々技能実習生だった者です。長期間雇用（8年）している者は、主要な業務も任せることができます。また、後輩の指導も積極的に行ってくれており非常に助かっています。

➤ 外国人材はどのような業務をしていますか。



直売所の様子

外国人には、レタス等の栽培に係る作業全般（種まき、植え付け、収穫等）を担ってもらっています。なお、レタス栽培の農閑期（7~8月）は、機械のメンテナンスなどの実習をさせています。

また、毎年6月頃、当社敷地内の倉庫を利用した直売所を開設しており、外国人には、そこで接客・販売業務も体験させています。

外国人の皆さんには、接客の仕事を含め地域の人と関わることができ、また、日本語の勉強にもなると好評です。

## 受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

➤ 外国人材の生活環境を教えてください。

外国人は、借家や借間（一戸建て3名、元老人ホーム6名、民間アパート3名等）に住んでいます。

休日について、以前は、毎日出荷・調整等の作業が必要なため、交替で休んでいましたが、真空予冷庫を設置したことで、品質の保持等が可能となり、従業員が一斉に休む（日曜日）ことができるようになりました。

また、親睦を目的として、毎年1回、従業員全員で旅行に行っています。最近、長崎のハウステンボスに行っていますが、これは、外国人の若者がインスタ映えするところを好むことから、その要望に応えるためです。

さらに、定期的な焼肉会やパーティを地域の方を交えて開催し、地域内、社内の親睦を図っています。

外国人を受け入れた当初は、地域から「騒音」や「ゴミの不分別」等の苦情が寄せられましたが、外国人に対してきちんとやるべきことを粘り強く指導した結果、最近では苦情はほとんどありません。

また、地域に受入れられるために、会う人には積極的に挨拶をするよう指導し実行させた結果、地域で外国人が認知されてきているように感じます。

➤ 受け入れるにあたって心掛けていることはありますか。

外国人を含む従業員とのコミュニケーションを特に大切にしています。

日頃からのコミュニケーションはもちろんですが、年に2回（うち1回は通訳を交えて）個人面談を実施しています。面談の際は、会社の経営状況を踏まえた給料への反映状況を説明するとともに意見・要望を聞いています。

外国人労働者とうまくやっていくには、「外国人労働者に助けられているという感謝の気持ちを持つこと」「しっかりと働けば、それに見合う報酬がもらえることを理解させること」が重要であると思っています。

## 今後の事業展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

今後もレタスを中心に経営を展開していく方向です。

外国人実習生を含め若手とベテランが共に汗をかき、事業達成の喜びを分かち合う理想の事業組織を目指します。

体が動く若い世代が組織を牽引し、年配世代が知恵と経験で協力し支えていく、すべての世代で魅力のある事業を展開していきたいと考えています。



社員旅行 ハウステンボスにて



レタス苗の植え付け作業  
ベトナム伝統の帽子（ノンラー）を被り実習中